

乍恐奉願口上之覺

一 私先祖之者義元和四年より元錄^(マ)九年迄七十

間竹嶋渡海仕其功ヲ以乍恐

公方様

御太守様^{江茂}御目見并御時服等拝領被為

仰付殊^ニ家録^与シテ魚鳥口錢取被仰付家名相

続仕難有仕合奉存候、尚又正徳五年以来

御用魚相勤来候處此度

中将様御滞

城被為遊候^ニ付^{而者}忤善右衛門義御用魚為御伺

日々相勤殊^ニ網御用等^茂被仰付重々難有

仕合奉存候、依^而乍恐代々帶刀御免被

仰付被為下候様奉願上候、此段宜様偏奉願上候

以上

元治二年丑正月日

大谷九之右衛門

澤貞三郎様

築瀬十郎様

寺本平太様

右願書正月五日御月番十郎様へ差出ス